



—湾岸・アラビア半島地域ニュース—

イラン経済 (11月4~5日)

1. 食料品の値上げ (5日付ハムシャフリー紙)

鶏肉と鶏卵に関する政府決定に反し、一部の商店は、鶏卵1個あたり400トマン(4,000リヤル。政府決定の2倍の価格)に値上げして販売している。政府価格で販売する政府運営の市場では、卵は数時間で売り切れる(注:鶏卵1個当たりの値段は、市場レート換算では約11円、公定レート換算では約26円。テヘラン北部の商店における鶏卵1個の値段は300トマンであったとの声もある)。

2. イランの外貨準備高 (5日付ドンヤーイエ・エグテサード紙)

西側の報道によれば、イランの(金を除く)外貨準備高は700億米ドルである。同報道は、今後、イランの外貨準備高が減少を続け、来年には640億ドルになるとしている。

3. 外貨市場に関する経済財務大臣発言 (5日付ケイハーン・インターナショナル紙)

ホセイニー経済財務大臣は、イランの外貨市場に関し、数日間はリヤル高の傾向にあり、最近の乱高下は、間もなく落ち着いた状態になるだろうとの見通しを示した。

4. トルコの財務大臣の発言 (4日付ハムシャフリー紙)

トルコのシムセク財務大臣は、イランからのガス輸入の支払いを金で行っているとの報道を否定した。イランはトルコから大量の金を輸入している。

5. 第1回イラン・イラククルド経済協力会議の開催 (6日付イラン・ニュース紙)

11月4日にテヘラン商工鉱業会議所(CCIM, Tehran Chamber of Commerce, Industries and Mines)のヤフヤー・アーレエスハグ(Yahya Ale-Eshaq)会頭は、11月12日に第1回イラン・イラククルド経済協力会議(official meeting for economic cooperation between Iran and Iraqi Kurdistan)を開催すると述べた。

6. アルゼンチンとブラジルとの貿易 (4日付ケイハーン紙)

米紙によれば、アルゼンチンとブラジルがイランとの取引を著しく増加させており、イランとラテンアメリカ地域の貿易のうち96%を占めている。アルゼンチンの対イラン輸出額は12億、ブラジルの対イラン輸出額は26億米ドルである。

7. 対イラン制裁に関する石油大臣発言（6日付ケイハーン・インターナショナル紙）

ガーセミー石油大臣は、対イラン制裁を西側諸国が強化した場合、イランは原油供給量を削減し、原油価格の上昇を引き起こすと述べた。

8. タンカーの建造（6日付イラン・デイリー紙）

11万3,000トンのアフラマックス・タンカーをイランは国内で独自に製造しており、3か月以内にベネズエラに引き渡す予定である。

9. バンカー油の割引販売（5日付イラン・デイリー紙）

西側の報道によれば、イランはUAEにおいてバンカー油を大幅にディスカウントして販売している。1トン当たり615米ドルの相場のところ、イランは610米ドルで販売している。

◎本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 公益財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799